

(4)-③

防災講話(3学年)

1 題材名

「未来への羅針盤」

2 講師

気仙沼市立唐桑中学校 教諭 七宮 克徳氏
震災時：気仙沼市立大島中学校勤務

3 日時

9月3日(木)
5・6校時(13:35~15:25)

4 対象

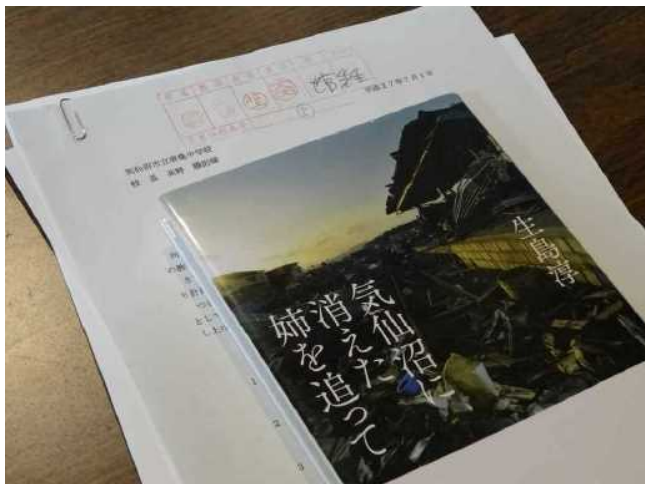
3学年生徒、職員、保護者

5 ねらい

3・11の地震のとき、同じ宮城県内の別の地域では、何が起きどんな状態だったのか風化させることなく記憶に残す。

6 内容

震災時、気仙沼大島に勤務されていた経験を持つ。震災直後気仙沼湾の火災で、孤立した大島。そこでアメリカ軍による救援部隊の「トモダチ作戦」に島で唯一の英語の話せる人間として、通訳として参加。その活躍は、生島淳の「気仙沼に消えた姉を追って」にも紹介された。その内容を含め、気仙沼の復興、そして子供たちの活躍など震災で被災した現状と復興により変わっていく様子を伝えていただいた。



震災当時、島の東側と西側と両方から津波が襲ったこと。島に水が無く、プールの水を浄化して飲んでいったこと。気仙沼湾の火災が島にも移ってきたこと。など当時の震災の様子を伝えていただいた。

アメリカ軍が島の瓦礫を片付けてくれたこと。島の小さい子供の心を支えてこと。気仙沼市内の復興の様子など、震災がどのように人々の生活を一変させ、未だに前を向き歩いている現状があることをあらためて伝えていただき、生徒も何をしていくべきか考えていた。

